

ひがし北海道 釧路の大自然をサイクリングで”ゆったり”と サステイナブル観光

広大な湿原の上をタンチョウヅルやワシが優雅に舞う。そんな風景を日常的に見ることが出来る北海道の東側に位置する釧路市で、サイクリングを中心とした観光や地域活性化を図る市民参加型の企画が盛り上がりを見せている。

釧路市では、カヌーやJRノロッコ号・SL湿原号などゆったりとした時間を味わう観光が人気であったが、新たに自転車を観光や地域活性化に結びようと、2018年『くしろロコサイクルプロジェクト』という市民団体が立ち上がった。主な活動の一つとして、自転車専用道路の活性化がある。

阿寒町雄別地区から釧路駅まで走っていた炭鉱列車の線路跡が、自転車専用道路（25.5km）として1978年に開通となり、サイクリングの他にウォーキングやランニングを楽しむ市民が多くいる。

さらなる活性化に向けて自転車道の調査や観光のための拠点づくりとして、6カ所の乗降施設を選定しワンウェイサイクリング事業を開始した。自転車を借り、行きはゆっくりと景色を楽しみながら自転車を走らせ、目的の施設や周辺エリアで食事や温泉などの休養をした後は乗り捨てて拠点で自転車を返却。帰りは公共交通機関やタクシーなどでゆったり帰ってくる。行きはサドルの上から、帰りは車窓から、違った景色を楽しめることも魅力の一つだ。

JrクロスバイクやE-bike MTBも揃えていて、レンタル料金はマウンテンバイク1台を4時間2,200円から借りることが出来、乗り捨て料金も同額の2,200円に設定している。

また、8月1日から9月30日には、釧路・阿寒を自転車で巡り、街を知りながら景品をゲット出来る「デジタルスタンプラリー」の企画を開催している。今後はオーダーメイドで目的地を選定してもらい、サイクリング×グランピング×サウナなど、釧路の大自然と食を満喫できるツアーの開発も視野にしている。ウィズコロナ、アフターコロナにおける、ひがし北海道のアウトドア観光はまだまだ可能性を秘めている。

北海道新聞社 釧路支社営業部長 北村隆太郎



水揚げ量全国2位（2020年度）の釧路港



知らなかった地元の魅力に気付く。
人に伝える、誘う